

令和7年度特色入試問題

《 医学部 人間健康科学科 》

論文試験

100点満点

(注 意)

1. 問題冊子および解答冊子は係員の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は表紙のほかに27ページある。
3. 解答冊子は問題ごとに分かれており、計4冊である。それぞれの解答冊子は表紙のほかに問題Ⅰが8ページ、問題Ⅱが6ページ、問題Ⅲが10ページ、問題Ⅳが4ページである。
4. 問題Ⅰは必ず解答をすること。
5. 試験開始後、すべての解答冊子の表紙所定欄に受験番号・氏名をはっきり記入すること。
表紙には、これら以外のことを書いてはならない。
6. それぞれの解答冊子の所定の枠の中および「ます目」の部分が解答欄である。
7. 解答はすべて横書きで記入し、解答冊子の指定された解答欄におさめること。
8. 字数制限がある問については、算用数字やアルファベットその他の記号を用いる場合も、
解答欄1マスに1つ記入すること。
9. 解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがある。
10. 解答冊子はどのページも切り離してはならない。
11. 問題冊子は持ち帰ってもよいが、解答冊子は持ち帰ってはならない。

I 次の文章1から文章3までを読み、以下の間に答えなさい。

文章1

文章1は、江戸時代における人体解剖について述べたものである。

1853（嘉永6）年にペリーが来航して、江戸幕府は鎖国政策を放棄した。1855（安政2）年には長崎に海軍伝習所を開設し、西洋の科学技術を積極的に取り入れることにした。ここにやってくる、日本に医学を伝えたのがオランダ人医師のポンペ（1829～1908）である。ポンペは体系的な医学教育を我が国で初めて行った。基礎医学に続いて臨床医学を系統的に教える5年間のカリキュラムを準備した。我が国で初めて、医学教育のための人体解剖を行った。また西洋式の病院（養生所）で患者の治療とともに臨床実地教育を行った。

ポンペによる人体解剖は、1859（安政6）年に長崎の西坂刑場で行われることになった。死刑囚は俗吏小島喜左衛門の従僕であった平三郎で、主人の官金から多額の盗みを行った罪であった。死罪であるので当然に解剖が許される状況であった。小島喜左衛門が、罪人の解剖を許さないと書面をもって反対したが、奉行の許可があるからということで実行に踏み切った。また小役人らが、罪人であっても日本人の死体を外国人に委ねて解剖するのは国家の体面に関わるので、たとえ教官であっても外国人が手を下すのを禁じるべきだ、と主張し始め、奉行も手の打ちようがなかった。ポンペ門下の塾頭の松本良順は、警備を厳重にして騒動が起こらないように警戒するとともに、ポンペと相談して何事も知らないように平然と解剖を行うことにした。ポンペは3日間をかけて、内臓、神経と血管、脳の解剖を行った。解剖には45人の医師と1人の女医が立ち会い、大いに満足した。

この後でさらに問題が生じた。平三郎の解剖の話をつき聞いて、長崎の囚獄で囚人たちが騒ぎを起こした。

「我儕犯罪者は罪の軽重により刑戮に逢う、もとよりその所にして甘心死に就くべし。これ死を以てその罪科を償うに足ればなり。然るになおその屍体を割き寸断分裂さるる、何ぞ残酷の甚だしき、未曾有の惨事というべきなり」

というのである。役人も困っているところ、松本良順は自分が彼らに説明して説得しようと申し出た。

「それ医の屍体を解剖するや、学術上最も裨益を与うることにして、治療に益し世に効あること今さら言を俟たず。故に欧州にては、罪人ならざる者も世に有志の徒は自ら遺言してこれを行わしむる者比々としてあり。今囚人の悪事をなし刑に処せらるるの屍を以て世人幾万の治療に益を与うれば、これ罪障消滅のみならず、その世に貢献するの功実に宏大無量というべし」

と人体解剖する意義を筋道だつて説明した。さらに松本良順は自ら施主となって法要を行い、石塔を建立することを告げた。こうして囚人たちも納得し、死刑囚も満足して怨み言なく刑に服した。

（出典：坂井建雄著 献体 ―遺体を捧げる現場で何が行われているのか― 株式会社技術評

論社 pp142-144 2011年より 一部抜粋・改変)

文章2

文章2は、現代の献体¹⁾について述べたものである。

献体というのは、自らの身体を医学のために提供しようという崇高な行為である。死後の身体を解剖することが残酷なことであると捉える日本の伝統的な習俗を考えると、その崇高さはさらに際だって見える。早くから献体を希望し、献体を広めてきた篤志家²⁾には、概して自由を尊ぶ個性と強い意志を持つ人たちが多かったように思える。

(中略)

献体運動を通して得られた最大の成果は、遺体が解剖されることについての見方を根本的に変えたことではないだろうか。かつては、医学のためとはいえ死後の身体を解剖されることは、懲罰的で残酷なことであった。しかし篤志家が自らの身体を提供することを申し出て、その献体の志を熱く語ることによって、解剖のために遺体を提供することは一人の人間の生きる目標として掲げることのできる立派な行為に変わったのである。

献体はもはや強い個性を持つ人が行う変わった行為ではなくなった。現在では、ごく普通の人が自然な気持ちで献体を申し出て下さる。

献体によって人体解剖の持つ教育面での意味あいにも変化が生じてきた。人体解剖は、人体内部の構造を理解し確認する作業という以上の意味を持つようになった。何十年かの人生を全うした一人の人間の遺体と向き合う体験、それ自体から来る価値をもたらすようになったのである。医の倫理という今日的な意義が、人体解剖実習の中に見出されるようになった。かつて刑死体や身寄りのない遺体を解剖していた頃には、学生は解剖体に材料(マテリアル)という感覚を持っていたが、献体による遺体の場合には献体者の身体を解剖させていただくという感謝の気持ちが芽生えるようになったと、はっきりと感じられる。

(出典：坂井建雄著 献体 ―遺体を捧げる現場で何が行われているのか― 株式会社技術評論社 pp154-156 2011年より 一部抜粋・改変)

註)

- 1) 献体：医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供すること
- 2) 篤志家：社会事業や慈善活動を積極的に援助する人

文章3

文章3は、日本語の「さわる」と「ふれる」について述べた文章である。

日本語には、(1) 触覚に関する二つの動詞があります。

- ① さわる
- ② ふれる

英語にするとどちらも「touch」ですが、それぞれ微妙にニュアンスが異なっています。

たとえば、怪我をした場面を考えてみましょう。傷口に「さわる」というと、何だか痛そうな感じがします。さわってほしくなくて、思わず患部を引っ込めたくなる。

では、「ふれる」だとどうでしょうか。傷口に「ふれる」というと、状態をみたり、薬をつけたり、さすったり、そっと手当てをしてもらえそうなイメージを持ちます。痛いかもしれないけど、ちょっと我慢してみようかなという気になる。

(中略)

つまり私たちは、「さわる」と「ふれる」という二つの触覚に関する動詞を、状況に応じて、無意識に使い分けているのです。もちろん曖昧な部分もたくさんあります。「さわる」と「ふれる」の両方が使える場合もあるでしょう。けれども、そこに私たちは微妙な意味の違いを感じとっている。同じ触覚なのに、いくつかの種類があるのです。

哲学の立場からこの違いに注目したのが、坂部恵です。坂部は、その違いをこんなふうに論じています。

愛する人の体にふれることと、単にたとえば電車のなかで痴漢が見ず知らずの異性の体にさわることとは、いうまでもなく同じ位相における体験ないし行動ではない。

一言でいえば、ふれるという体験にある相互嵌入の契機、ふれることは直ちにふれ合うことに通じるという相互性の契機、あるいはまたふれるということが、いわば自己を超えてあふれ出て、他者のいのちにふれ合い、参入するという契機が、さわるということの場合には抜け落ちて、ここでは内-外、自-他、受動-能動、一言でいってさわるものとさわられるものの区別がはっきりしてくるのである。

「ふれる」が相互的であるのに対し、「さわる」は一方的である。ひとことで言えば、これが坂部の主張です。

言い換えれば、「ふれる」は人間的なかわり、「さわる」は物的なかわり、ということに

なるでしょう。そこにいのちをいつくしむような人間的なかわりがある場合には、それは「ふれる」であり、おのずと「ふれ合い」に通じていきます。逆に、物としての特徴や性質を確認したり、味わったりするときには、そこには相互性は生まれず、ただの「さわる」にとどまります。

重要なのは、相手が人間だからといって、必ずしもかわりが人間的であるとは限らない、ということです。坂部があげている痴漢の例のように、相手の同意がないにもかかわらず、つまり相手を物として扱って、ただ自分の欲望を満足させるために一方的に行為におよぶのは、「さわる」であると言わなければなりません。傷口に「さわる」のが痛そうなのは、それが一方的で、さわられる側の心情を無視しているように感じられるからです。そこには「ふれる」のような相互性、つまり相手の痛みをおもひやるような配慮はありません。

もっとも、人間の体を「さわる」こと、つまり物のように扱うことが、必ずしも「悪」とも限りません。たとえば医師が患者の体を触診する場合。お腹の張り具合を調べたり、しこりの状態を確認したりする場合には、「さわる」と言うほうが自然です。触診は、医師の専門的な知識を前提とした触覚です。ある意味で、医師は患者の体を科学の対象として見ている。この態度表明が「さわる」であると考えられます。

同じように、相手が人間でないからといって、必ずしもかわりが非人間的であるとは限りません。物であったとしても、それが一点物のうつわで、作り手に思いを馳せながら、あるいは壊れないように気をつけながら、いつくしむようにかかわるのは「ふれる」です。

(中略)

人間を物のように「さわる」こともできるし、物に人間のように「ふれる」こともできる。このことが示しているのは、「ふれる」は容易に「さわる」に転じうるし、逆に「さわる」のつもりだったものが「ふれる」になることもある、ということです。

相手が人間である場合には、この違いは非常に大きな意味を持ちます。たとえば、障害や病气とともに生きる人、あるいはお年寄りの体にかかわるとき。(2) 冒頭に出した傷に「ふれる」はよいが「さわる」は痛い、という例は、より一般的な言い方をすれば「ケアとは何か」という問題に直結します。

ケアの場面で、「ふれて」ほしいときに「さわら」れたら、勝手に自分の領域に入られたような暴力性を感じるでしょう。逆に触診のように「さわる」が想定される場面で過剰に「ふれる」が入ってきたら、その感情的な湿度のようなものに不快感を覚えるかもしれません。ケアの場面において、「ふれる」と「さわる」を混同することは、相手に大きな苦痛を与えることになりかねないのです。

(出典：伊藤亜紗著 手の倫理 株式会社講談社 pp3-7 2021年より 一部抜粋・改変)

- 問1 文章1で述べられている医学教育のための人体解剖が行われた際の医師の触覚は、文章3の下線部(1)における「さわる」と「ふれる」のどちらであったと考えられるか、文章1、文章2、文章3をふまえて150字程度で説明しなさい。
- 問2 解剖学は、京都大学医学部人間健康科学科の教育において重要である。文章1、文章2、文章3をふまえ、学生としての人体解剖実習に臨む態度について、「さわる」と「ふれる」の両面の視点からあなたの考えを300字以内で述べなさい。
- 問3 文章3の下線部(2)について、あなたが志望する医療専門職として、提供するケアはどうあるべきか。「さわる」「ふれる」の言葉を用い、具体例を挙げてあなたの考えを5～6行程度で述べなさい。

II

次の文章1から文章3までを読み、以下の問に答えなさい。

文章は出典のみ公開する。

文章 1

(出典:L. ベラック著 小此木啓吾訳 山アラシのジレンマ ―人間的過疎をどう生きるか―ダイヤモンド社 pp3-4 昭和50年より 一部抜粋・改変)

文章 2

(出典:ダニエル・コイル著 楠木建監訳 桜田直美訳 THE CULTURE CODE ^{ザ カルチャー コード} 最強チ^{さいきょう}ームをつくる方法 ^{ほうほう} 株式会社かんき出版 pp22-26 2022年より 一部抜粋・改変)

文章 3

(出典:ダニエル・コイル著 楠木建監訳 桜田直美訳 THE CULTURE CODE ^{ザ カルチャー コード} 最強チ^{さいきょう}ームをつくる方法 ^{ほうほう} 株式会社かんき出版 pp32-38 2022年より 一部抜粋・改変)

- 問1 文章1を読み、これまでにあなたが経験した「山アラシ・ジレンマ」について、具体的な例を挙げて説明しなさい。
- 問2 文章2で述べられているビジネススクールの学生チームと幼稚園児のチームには、どのような特徴があったのか、それぞれ100字以内で説明しなさい。
- 問3 文章1、文章2、文章3を読み、患者の生活の質（Quality of Life）向上のためにパフォーマンスを発揮できる多職種医療チームとはどのようなものか、あなたが志望する医療専門職を念頭において、述べなさい。

Ⅲ

次の文章1から文章3までを読み、以下の間に答えなさい。

文章1

昔々ではなくわりと最近、あるところに「イタチ村」という村がありました。村の住人はみな「イタチ」でした。狭い村ですが、大勢のイタチが住んでいました。イタチたちはみんな細長い体をしているので、狭くても平気なのです。

イタチたちはみんなそれなりによく働いていましたが、心の奥ではいつも「もう、働きたくないなあ。働かなくてもいいようにならないかなあ」と考えていました。

そんなとき、他の村から妙なうわさが流れてきました。フクロウ村やアリ村やその他のあちこちの村で、何やら「便利なロボット」を作ったというのです。しかもそれらを使って、何やら「いい思い」をしているようなのです。

イタチたちは最初、まったくそのうわさを信じていませんでした。なぜなら彼らは内心、他の村の動物たちをばかにしていたからです。でもある日、みんなで森に行ったとき、とんでもないものを見てしまいました。

「魚たちが、こんなロボットを作っていたなんて……」

みんな、動揺を隠せません。そんなとき、一匹のイタチがこう言い出しました。

「ねえ、これを改良して、もっとすごいロボットにしない？ 魚が陸を歩くなんていうのよりも、もっともっとすごいことができるのを作ろうよ」

みんな、いい考えだと思いました。「魚のよりも、もっともっとすごい」というところがとくに気に入ったようです。

「じゃあ、どんなロボットにする？ このロボットは魚が乗るためのものだけど、イタチが乗れるようにする？」

農民のイタチが意見を言います。

「そんなの、あんまりすごくないよ。それより、畑仕事ができるやつがいい。畑を^{たがや}耕^{たがや}せて言ったら耕してくれたり、きゅうりを収穫しろって言ったら収穫してくれたり」

そうやって話し合っているうちに、意見がまとまってきました。

「つまり、僕らはロボットにしてほしいことを言うだけで、あとはロボットが勝手にやってくれる。それが一番いいってことだね」

「それじゃあ、こちらの言うことが何でも分かって、何でもできるやつをたくさん作ろう。そしてそいつらに、何でもやらせるんだ」

(中略)

森の中の道を、大勢の動物たちが歩いていきます。彼らはみな、イタチ村を目指して歩いているのです。イタチ村の入り口には、「イタチ村被害者の会 第一回会合」という立て看板が掲げられ、村の広場にはテーブルが円形に並べられています。

タヌキ「これから、「イタチ村被害者の会 第一回会合」を開催します。わたくし、議長を拝命しましたタヌキと申します。本日の第一回会合では、イタチ村のイタチたちが近隣の村々にもたらしたという被害について、どのように解決がなされるべきかについて話し合いたいと思います」

円形のテーブルに座る動物たち、そしてその周辺で見物する動物たちからは拍手が起りましたが、イタチたちはみな頬をふくらませて黙っています。彼らは不満で不満で仕方がないのです。でも、これほど大勢の動物たちを敵に回しては、なすすべがありません。

タヌキ「ではみなさん、何か意見はありませんか？」

各村の代表がさまざまな意見を言いました。魚村の代表は、イタチたちが彼らのロボットをくすねていたことに対して怒りを表明し、お金で賠償するよう要求しました。また、モグラ村やカメレオン村も、イタチたちが彼らの機械に対して「本当は言葉が分かっていない」などと悪口を言い、風評被害を与えたと言って、金銭による賠償を主張します。しかし、タヌキ議長は渋い顔をします。

タヌキ「たとえば、こういうのはどうでしょう。今回のイタチ問題は、そもそも、このイタチたちが「言葉が分かるロボットを作る」という計画を立てたことが発端です。彼らの取り組み方には問題がありましたが、計画そのものは悪いものではありません。もしそういうロボットができれば、どこの村にも恩恵がある。そう思いませんか？」

魚村代表「それはそうですけど、議長は何が言いたいんですか？」

タヌキ「私が言いたいのは、「言葉が分かるロボットを作る」ことを、みんなで目指さないかということです。カメレオン村、アリ村、フクロウ村では、それぞれに「言葉が分かる機械」を作っていますね？ でも、みなさん自身、それらの機械に完全に満足してはいないはずです。イタチたちはこれまで、みなさんの努力に対して、明らかに失礼なことをやってきたかもしれません。でも、彼らの言うことの中には、ある程度真実があったのではないですか？」

カメレオン村代表「だとしたら、どうなのさ？」

タヌキ「つまり、みなさんの機械にはまだ欠けたところがある。その部分をイタチたちに作らせることを、損害賠償とみなせばいいのではないのでしょうか？ そして、イタチたちに作らせた部分を共有して、それぞれの村で役立てるといえるのはどうでしょう」

(中略)

「第二回 イタチ村被害者の会」で ^{ひろう}披露されたイタチ村の機械は、タヌキ議長を始め、他の村の動物たちを驚かせました。なぜならその機械は、彼らの期待をはるかに上回る性能を示したからです。

ロボットは、音声を聞き取り、周囲を見るだけでなく、歩いたり、走ったり、泳いだり、何かを持って運んだりすることができます。そして、できる範囲のことなら、「言葉での命令」を受け付けます。「走れ」と言われたら走るし、「～を…へ運べ」と言われたら運びます。そして、推論ができるので、少し違う言い方で命令しても、正しく行動することができるのです。

カメレオン村では、イタチ村の機械を利用して、おしゃべりをするロボットの改良版を作りました。その名も「ネオ・レオンちゃん」です。ネオ・レオンちゃんはフクロウの目を持っているため、村中を歩き回り、村人を見つけて話しかけることができます。そしてもちろん、イタチたちの機械によって推論をする力を身につけています。ですから、前よりももう少し「いいおしゃべり」ができると期待されていました。

そんなある日、若いカメレオンのカップルが、かくれんぼをして遊んでいました。彼女の方が姿を消して隠れ、彼氏の方が探すのです。彼氏がうろうろしているところに、ネオ・レオンちゃんがやってきました。

ネオ・レオンちゃん「こんにちは～。今、何してるの？」

カメレオン彼氏「ああ、レオンちゃんこんにちは。僕、恋人を探してるんだけど、なかなか見つからなくて」

それを聞いたネオ・レオンちゃんはこう言いました。

ネオ・レオンちゃん「へえ、あなた、恋人が欲しいんだね！ 恋人を募集するなら、レオンも手伝うよ♪」

カメレオン彼氏「え？ 何言ってるの？」

そのとき、ネオ・レオンちゃんの背後から、カメレオンの彼女が姿を現しました。彼女は顔を真っ赤にして、彼氏に言います。

カメレオン彼女「ちょっとあなた、聞いたわよ。私という恋人がありながら、今、レオンちゃんに恋人探しを頼んでたでしょ！ この浮気者！ もう、あなたなんか知らないわ！」

カメレオン彼氏「(1) ちょよ、ちょっと、待ってくれ！ 誤解だよ！」

(出典：川添愛著 働きたくないイタチと言葉がわかるロボット —人工知能から考える「人と言葉」 株式会社朝日出版社 pp5-9, pp107-110, pp205-209 2023年より 一部抜粋・改変)

文章 2

ある日、某輸入食品店のレジで量り売りのコーヒー豆を注文したときのことで。店員さんに「これを二百グラム、ええと……あの……これを……」と、なぜかいきなり頭が真っ白になりました。豆を“挽く”というワードがどうしても出てこなくなったのです。店員さんは笑顔で優しく、うんうんと相槌を打ちながら私の口から“挽く”という言葉が出るまでゆっくり待ってくれたのですが（しばらく泳がしやがったな、とあとで思いましたが）、私は身振り手振りと一緒に「あの、豆をこう、ガリガリ……」と必死で伝えたのです。

やっと店員さんが「お挽き、して？」と誘導してくれ、「そうそれ！ 挽いてください！」と晴れて頼めました。その場に安堵の空気と笑いが生まれ、「ガリガリ」が手伝ってくれたかもなど振り返って思ったのでした。

（出典：出口かずみ著 名前のないことば辞典 株式会社遊泳舎 pp4-5 2021年より 一部抜粋・改変）

文章3

本日はご紹介するのは、2017年12月に出版した『自動人形の城』という本である。この本は、今流行りの人工知能とか、言葉とか、まあ、そういうものについて扱っている。この時点でもう書くのが辛くなってきたが、もう少し踏ん張って紹介すると、この本のテーマは「意図」である。

意図というのは、ざっくり言えば、「人が考えている内容」だ。コミュニケーションにおいては、私たちが他人に伝えたいと思う内容がこの「意図」だと言っていいだろう。日常レベルでは「意味」も「意図」もだいたい同じように使われるが、ここでは各単語の辞書的な意味や、文そのものが表す内容を「意味」と呼び、それらの単語や文に載せて話し手が聞き手に伝えたいことを「意図」と呼ぶことにしたい。

「意味と意図のずれ」は混乱の種になることがあるが、話し手と受け手との間での了解さえあれば、それを逆手にとって利用することもできる。「合い言葉」はそういった例の一つだ。「山」と言って「川」と返せば仲間だと見なすような場合、「山」や「川」の本来の意味は何ら関係がない。それらはただ、「お前は仲間か?」「私は仲間だ」という意図を伝えるのみだ。よって「山」「川」である必然性はなく、相手との合意さえあれば別の言葉だっていいし、何なら「豊」を追加したっていい。だからこそ、部外者には意図を悟られない「合い言葉」として機能する。

(中略)

ずいぶん話が脱線してしまったが、そろそろ、これが『自動人形の城』のPRのための文章であることを思い出さなくてはならない。今まで挙げてきた例は、意味と意図との違いを分かりやすく説明するための極端な例だ。そういうのは、実は『自動人形の城』にはあまり出てこない。この本の中に多く出てくるのは、「意味の面から見て妥当な範囲で話しているにもかかわらず、意図の推測に相当複雑なプロセスが関わっていることを示す例」である。別の言い方をすると、話し手は「自分はおおよそ文字どおりの意図でしゃべっている」と思っており、聞き手も「相手の意図を文字どおりに理解している」と思っているのに、実はそこに意図理解のための暗黙の処理が働いているケースだ。

困難をもたらす主な要因は、言葉の曖昧性や不明瞭さである。「曖昧な言葉」というと、多くの方は真っ先に「橋」(はし)と「端」(はし)のような同音異義語を思い浮かべられるかもしれないが、それ以外にも曖昧なケースはごまんとある。たとえば、何かを回せという指示を実行する場合、「回す」という言葉の意味さえ知っていれば誰にでもできそうに思えるかもしれないが、(2) 話はそう単純ではない。もし私たちがバトントワリング用のバトンを渡され

て「これを回せ」と言われたら、棒の中央あたりを持ち、バトンの両端が円を描くように回すだろう。他方、横に渡した焼き串に肉を刺し、火であぶって丸焼きにする場合、「串を回せ」と言われたら串そのものを回転軸と見なして回すはずだ。さらに、「扇風機を回せ」と言われたら電源とスイッチを入れるはずで、手で本体をぐるぐる回したりはしない。

私たちはたいてい、曖昧性を残したまま「曖昧じゃないつもり」でしゃべっているし、文脈やら常識やらを使いながら他人の言葉の曖昧性を解消し、意図を推測している。「今はもう動かないおじいさんの時計」という歌詞を聞いて、大多数の人が「動かないのは、まさか、おじい……いやいや、やっぱり時計の方だよ、うん」という良識的な解釈をするのも、歌のテーマや雰囲気を考慮して、作詞者の意図を推測するからである。

AI にとっての問題は、「意図を特定するための手がかりが、言葉そのものの意味の中に入っていない」ということである。つまり、AI にいくら言葉そのものの意味を教えても、それだけでは意図をきちんと推測するためには不十分、ということだ。

(出典：川添愛著 言語学バーリ・トゥード Round 1 AI は「絶対に押すなよ」を理解できるか 一般財団法人東京大学出版会 pp16-23 2022 年より 一部抜粋・改変)

- 問1 文章1の下線部(1)の誤解について、どのような状況で、どのような誤解が生じているか、「ネオ・レオンちゃん」、「カメレオン彼氏」、「カメレオン彼女」の三者に言及しながら、300字以内で説明しなさい。
- また、下線部(1)の誤解を生むきっかけになった理由について、「ネオ・レオンちゃん」、「カメレオン彼氏」の二者に言及しながら、文章3の内容をふまえて、260字以内で説明しなさい。
- 問2 文章3の下線部(2)について、「話はそう単純ではない」にもかかわらず、私たちが「相手の意図している回し方」を理解できる理由について、200字以内で説明しなさい。
- 問3 コミュニケーションにおいて、「言葉が分かる」とは、どのようなことを意味し、そのためには、どのようなことが必要か。文章1、文章2、文章3の内容をふまえて、コミュニケーションの特徴に言及しながら、500字以内で説明しなさい。

IV 次の文章を読み、以下の問に答えなさい。

英文は出典のみ公開する。

(出典 : Gawande, Atul. *Being Mortal: Medicine and What Matters in the End*.
Metropolitan Books pp1-6 2014年より 一部抜粋・改変)

- 問1 下線部(1)の「profound pain」は、何を意味しているのかを日本語で述べなさい。
- 問2 下線部(2)は「誰も彼が願っているほど彼に同情してくれない」という意味である。その『彼』は、家族や医療関係者にどのように接してほしかったのか、文章の内容をふまえて日本語で述べなさい。
- 問3 下線部(3)はどのようなことを意味しているか、誰が「primitive」なのかを明確にして、日本語で述べなさい。

問題はこのページで終わりである